

ネモフィラ通信 NO.38

救命救急センターは、地域の3次救急医療を支えています！【後編】

～救命救急センター～



救急外来では、命に重大な危険が及ぶ病気やケガをした患者さんに対して、専門の医師や看護師、病院救命士、放射線部門、臨床工学部門等と連携し緊急処置・治療を行っています。看護師はチームの一員として、どのような治療でも、迅速かつ適切な看護ができるよう日々努めています。

特に重症なやけどの患者さんは国内最多数の患者さんを受け入れています。重症やけどの看護は治療する中で、命の危機を何度も乗り越えないといけません。呼吸・循環の管理に加え、やけどの傷の痛みをコントロールしながら生活上必要な動きを考えながらリハビリしていきます。その間の精神的・身体的な支えとして看護師の役割は大きいです。



また、脳死下臓器提供患者さんやそのご家族、災害時の支援等、医療を必要とする幅広い対象の看護を担っています。どんな場面でも、重篤な状態で緊急入院した患者さんやご家族の揺れる気持ちに寄り添い、支える看護を大切にしています。

先週のTOPIX 第50回看護部主催研究発表会

2/23 金曜日 ハイブリットで開催されました。日頃の看護を行う中で研究として取り組んだ6題の発表がありました。また2年目の看護師が前向きに取り組んだケーススタディー6題、特定行為看護師実践報告3題の発表もありました。皆緊張しながらも、発表後は晴れ晴れしい表情でした。今回は、日本赤十字豊田看護大学より巻野先生をお招きして講評をしていただきました。

今後も実際行っている看護を研究とした視点で取り組み、これからの看護を発展していけるよう取り組んでいきたいと思ひます。

